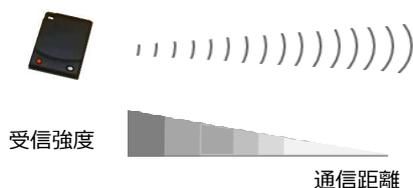


電波の特性について

電波を利用したアクティブタグの特性を理解して、正しくご使用ください



電波は、通信距離の二乗に反比例して弱くなって届きます。この特性を利用しますと、受信信号の強度を測定して、大まかな通信距離を推定することができます。但し、実際の使用環境では、建物や設備、柱や壁などがあるため、受信信号の強度には常にブレが生じます。ブレが生じると、高い精度で通信距離を測定することができないため、目安程度の情報として取扱います。

KoKoタグは、受信強度が測定できる 0～約30m（通信距離は約50m）の範囲でアクティブタグとして使用します。システムを導入する際には、事前に実際の環境で実機で検証して、目的の機能が実現できるかを評価する必要があります。

（事例） 在場管理

どの設備を誰が操作しているか、在場を管理したい



KoKoタグをヘルメットや、帽子などに取り付けます。工場において作業者が、どの設備にどれぐらいの時間、関わっていたかを把握することができます。作業実績時間の把握のほか、どの時間帯にどの設備を操作していたかや、大きな衝撃があった際には、アラームで上位システムに通知することで、安全管理に役立てられます。また、人の通過を検知することで、所在管理や動線管理ができます。**在場管理用途に適したレシーバをご用意しています。**

（事例） 可搬型備品管理

可搬型の計測器や医療用測定器などの所在を管理したい



KoKoタグを計測器や医療機器に取り付けます。KoKoタグは、通常は電波発信を止めています（設定による）。対象物が動きまると発信します。また、一定時間停止を続けると、発信を止めます。発信が止まった付近に対象物が在ることが分かります。また、無駄な発信をしない為、電池が長持ちします。建物の主要な箇所に受信ユニットを設置しておくことで、対象物の動きが把握できます。

ご要求に応じたカスタム対応

お客様の利用形態、要求機能に応じてKoKoタグ仕様をカスタムします



各種センサー機能との連携をサポート

KoKoタグからの発信間隔、加速度センサ、温度センサなどのカスタムができます。また、弊社のダイナミックタグ（NFC Bridge）を内蔵することで、パッシブタグとして利用することができます。さらにバッテリー交換の目安情報を通知します。



レシーバはLAN内蔵のアクセスポイントまでの通信を中継し、KoKoタグを利用する付近に設置します。在場管理や所在を管理したい用途に適しています。KoKoレシーバは電源のみ用意することで簡単に設置できます。

- ・本製品の通信性能や電池寿命は利用環境に大きく影響を受けます。事前に検証の上、ご使用ください。
- ・本製品はケース入りの発信装置です。個別の組込み方法や上位側インタフェースにつきましては、ご相談ください。
- ・仕様及び外観は予告なく変更する場合がありますので、ご了承願います。
- ・本製品は日本国内での使用を前提にしております。国外での使用は考慮されていません。
- ・本製品はRoHS指令（欧州環境規制）に対応しております。

Ver4.5 2019年2月現在